

平成 30 年 9 月 1 日に思う

町村週報に、またまたいいお話が掲載されていたので皆さんにご紹介します。

「^{そったくどうじ}啐啄同時」という言葉をご存知でしょうか。

同週報に明治大学の榊田みどり教授が「啐啄同時と地域づくり」と題して執筆されていました。

その意味は、「ヒナは卵から孵化するとき、内側のヒナと外側の親鳥が同時に殻をつついて初めて殻が破れ、生まれることができる」というもので、禅の世界で師匠と弟子が意気相合し、間に髪を容れる瞬間がない様子を、親鳥とヒナの関係になぞらえて示した禅宗の教えだそうです。必要としているのにそれに応えない、“いるのに、いない”、そんな人と人との関係が希薄化している現代社会において、とても意味深い言葉です。

さらに同教授は、このことは行政職員にも重要な言葉だとしています。どんな立派な政策でも実践する主役は行政職員ではなく住民であり、さらに内発的なエネルギーがないのに外側から殻をつつくだけではヒナはかえらない、としています。

時間をかけて住民の内発性を引き出す努力や、丁寧でねばり強い対話が「地域づくり」に最も大事なことであると力説されています。

何事も、“^{あうん}阿吽の呼吸” でしょうか。まさに納得のいく言葉です。

あらためて、肝に命じ、日々の業務に精進したいと思います。